

令和6年度 教育行政方針演述

多様な教育実践の工夫を取り入れ、新しい学びの在り方へ進化を

吉野新平教育長は町議会3月会議が招集された3月5日、教育行政方針演述で令和6年度の教育行政施策を述べました。その主な内容を要約してお知らせします。

はじめに――

新年度は、ICT（情報通信技術）など多様な教育実践の工夫を積極的に取り入れ、新しい学びの在り方へと進化していく年となるよう、教育活動を再構築していく必要があります。コミュニティ・スクールを中心とした学校づくりや、持続可能な教育、ICTによる学習活動などの教育活動を推進します。

能登半島地震で多くの尊い命が犠牲になり、また、世界各地の紛争や軍事侵略など不安な時代において、町民は、傷ついた多くの人々に思いをはせ、手を差し伸べていく使命があるとともに、平泉が長く



守り育ててきた平和希求の思想を学び、発信していかなければなりません。

町学習交流施設「エピカ」を中心に、全ての世代が学び合い、互いに交流し、共に想像力を育める交流施設となるよう、さまざまな活用方法を考えていきます。

適応支援教室「カラフル」では、不登校児童生徒への細やかな対応や保護者への相談などの充実を図ります。

また、中尊寺金色堂建立900年を迎える本年を契機とし、更なる文化遺産の継承と芸術文化の振興を図ります。

本年度も、町教育大綱に掲げる「二人ひとりが輝き、幸せを実感で

■情報化社会における生活習慣づくり

発達段階に応じた情報メディアとの関わり方について、家庭での情報メディア利用に関するルール作りの定着を目指し、社会教育を中心としたさまざまな体験を通じた学習活動の充実を図ります。

■家庭と地域のつながりづくり

コミュニティ・スクールの実践的な取り組みを生かし、保護者とともに、他の家庭や地域、団体などにつながる機会を提供することにより、地域ぐるみで家庭教育を支援する体制の充実を図ります。

つどい・学び・つながる社会教育の充実

■「エピカ」を活用した学びと交流の促進

「エピカ」を拠点に、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」を促進させる多様な学習機会の提供を図ります。

■地域課題を考え合う学びの場づくり

平泉学やコミュニティ・スクールを通じて、子どもを中心に町民が集い、学び合う場を提供することにより、地域課題を考え、その解決に向け、自発的・主体的に行動す

ることができる人材の育成に取り組めます。



「町生涯学習町民のつどい」での神楽の披露

■ライフステージに応じた生涯スポーツの振興

全ての町民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむことができる環境整備を推進し、町スポーツ協会と連携を図りながら、生涯スポーツの振興に努めます。

過去に学び、今を見つめ、未来を考える「全世代型平泉学」

■幼保小中で取り組む系統的な平泉学

「郷土への愛着と誇りの醸成」を図るため、子どもたちの発達段階に応じた学習プログラムを改善

きるまちの実現」に向け、さらなる町教育の発展を目指します。

重点施策

生きる力を育む学校教育の推進

■確かな学力の育成

「知識や技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」を総合的に育むことを目指し、ICTなどを活用した学習活動を推進します。

幼保小中の連携を図り、子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する学びと、多様な個性を取り入れた学びの一体的な充実を図ります。

■豊かな心の育成

平泉学を軸とした体験活動や道徳教育を通して自己を見つめ、互いの個性を認め合える子どもたちの育成を目指します。特にも「いじめは絶対に許されない」という強い認識を持ち、学校での組織的な対応や、関係機関との連携による未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応に努めます。

■健やかな体の育成

子どもたちが自らの体力や健康に関心を持ち、体力の向上と心身の健康の保持増進に努め、運動に

し、子どもたちが未来の自分や平泉について考え、平和への願いを学ぶ機会とすることにより、将来を担う人材育成を推進します。

■世代を超え地域で学ぶ平泉学

子どもから大人まで、地域全体で学び合う学習活動を「全世代型平泉学」と位置付け、地域の事を学び合う機会の充実を図り、地域ぐるみで平泉の将来を担う子どもたちを育む機運を醸成し、持続可能なまちづくりにつながる人材育成に取り組めます。

文化遺産の継承と芸術文化の振興

■文化遺産の価値を学び、守る人材の育成

本年は、中尊寺金色堂の建立900年を迎えることから、町内の各施設と企画展を開催し、平泉に込められた平和・平等への理念や文化遺産の価値に触れる機会の創出に努めます。

新たに位置付けられた「ひらいずみ遺産」の調査研究や価値発信を進め、柳之御所遺跡の世界遺産の拡張登録に向け、県と連携して推薦への取り組みを進めます。

■多様な文化活動を活用したまちづくり

町内の各種団体の活動やその活

親しむ資質や能力を育成します。

子どもたちの心身の調和的発達を図るため、地場産品を多用した学校給食による食育の推進、情報機器の乱用防止を含めた基本的な生活習慣の確立、心身ともに健康な生活ができる子どもたちの育成を図ります。

■個に応じた教育の推進

学習や生活の中で特別な支援を必要とする子どもたちが抱える悩みや困難に寄り添うとともに、不登校の子どもたちの原因や背景を個別に把握し、「カラフル」などを活用した適切な支援を行います。

それぞれの多様性を認め、互いの価値を尊重し合う子どもたちの育成を図ります。

子どもの暮らしと学びを育てる家庭教育の向上

■子育てのための学び合いと仲間づくり

学校と連携しながら、保護者同士の学び合いや仲間づくりの機会を提供し、家庭教育学級など、さまざまな体験学習機会の充実を図ります。

必要かつ適切な情報が得られるよう、子育て支援に関する情報発信に取り組めます。

動を通じた交流がまちづくりの活力となるため、活動発表や鑑賞機会の充実に向けてまいります。

また、伝統文化の継承につきましては、後継者育成事業の実施により担い手の育成に努めます。

■文化財調査・研究の推進

発掘調査による成果を、現地説明会などでの公表や町広報などへ掲載するとともに、関係機関と連携しながら研究成果を分かりやすく発信します。

平泉遺跡群から出土した遺物の保存処理を実施し、恒久的な保存に万全を期します。

未指定の文化財は、引き続き実態の把握に努め、指定などの推進や価値の掘り起こしに努めます。

■文化遺産を生かした地域振興

史跡の発掘調査を推進するとともに、復元整備や公有化を行い、保存修理を通じた地域振興に取り組めます。

県立平泉世界遺産ガイダンスセンターと連携した企画展の開催や、地域の魅力の情報発信に取り組めます。

教育行政方針演述の全文は、町ホームページで確認できます。

